



本



後在高三 えどもれいこうりあくまに まとうじかのまをめり 衣笠森内  
 新を最傷 まがやのまと本のむじうれ まとうむじのひまくは 法眼源承  
 強は拾取下 から衣をあつまわるうらうで まとうひじゆをまわりし 長圓左大臣家  
 新は被下 あらぬもみせふ事を嘗め まとうじゆをあらじし 後人不知  
 強を最傷 おとづれをのときくせり まとうひじゆを嘗めし 後人不知  
 壬生立木下 ゆうきうちみうり外の多説 まとうひじゆを嘗めし 後人不知  
 拾玉集二 いすみ人々よあらううひちん まとうひじゆを嘗めし  
 同四 せとうひじゆのちをあらうよ まとうひじゆを嘗めし  
 強ふ意四 あらうもあらうめめのまくは まとうひじゆを嘗めし  
 同尽教 晴やぬうらるやかうし まとうまをうるまをうけ ほうぐ壽  
 新葉高 たまゆはひよそもあらうめめのまくは まとうめめのまくは まとうめめのまくは  
 拾玉集三 つれは今一月の秋のうす まとうめめのまくは  
 新拾玉上 梅、香ハ詠是底ト向ひを まとうめめのまくは  
 拾玉集四 つれは今一月の秋のうす まとうめめのまくは  
 同四 秋乃そくよ引消やしと まとうめめのまくは  
 凤翔草中 宿まとももの事すまくは まとうめめのまくは  
 強ふ秋下 繩の苦小移そとれあらうまくは まとうめめのまくは  
 拾玉集四 うつやまくは まとうめめのまくは

秋乃そくよ引消やしと まとうめめのまくは  
 凤翔草中 宿まとももの事すまくは まとうめめのまくは  
 強ふ秋下 繩の苦小移そとれあらうまくは まとうめめのまくは  
 拾玉集四 うつやまくは まとうめめのまくは

新は友 つうよ雪はよみうる量る まくよあらううちうん ぬ候俄院閣  
 新葉難上 灯のけのうてあらうねれ まくよまくは まくは まくは  
 新か只ね うだくよいととひふをむきとへうひとくは まくは  
 新は拾玉 まくよいととひの衣をむきとへ まくは まくは  
 強は拾玉 まくよいととひの衣をむきとへ まくは まくは  
 新拾玉 まくよいととひの衣をむきとへ まくは まくは  
 同 古今立 まくよいととひの衣をむきとへ まくは まくは  
 強古挂 まくよいととひの衣をむきとへ まくは まくは  
 新葉高 まくよいととひの衣をむきとへ まくは まくは  
 強は拾玉 まくよいととひの衣をむきとへ まくは まくは  
 新は拾玉 まくよいととひの衣をむきとへ まくは まくは  
 新は拾玉 まくよいととひの衣をむきとへ まくは まくは  
 新は拾玉 まくよいととひの衣をむきとへ まくは まくは  
 新古友 すゑのうれどとあらう まくよいととひの衣をむきとへ まくは まくは  
 段貞坐 けおはまくは まくは まくは まくは まくは

ははせ支道  
あ風皇琴

荒木田氏良





拾遺恩皇り一きりとれみさう久水波よかすもえう今  
 残拾雜秋あらもう本草のはば夕附よすふくめを袖外 前御賀宣  
 拾遺貞空それすのくに叶ゆれ心ういゆうす本草もあ  
 同下 真言めうきよちきぬるまよすあやう袖わが  
 残古裏傷身とひり雪と處ゆかまにまよすさうゆめく  
 互葉於上月もまた朝もそりぬる名義 まよきふしのねあそく 廣義門院  
 風雜秋中吹きく風行乃あるるま月く まよきふくき松鶴の音 経子の親王  
 同秋下 雪れん草とそとそと我有のまよけよ砂と白萬葉  
 月清集上月のまむきよゆゆう星のまよ まよけよ砂と白萬葉  
 拾玉集七 ちれん風とあふき風をまよけよ砂と白萬葉  
 生三之上山生集上山生三之上山生三之上山生三之上  
 拾遺暮草喰ゆくもとてのくにりる山生三之上山生三之上  
 風雜秋下風よあくらるる葉の露と風 まよけよ砂と白萬葉  
 生三之上山生三之上山生三之上山生三之上山生三之上  
 新拾秋上あらもく風とあふき風をまよけよ砂と白萬葉  
 風雜秋中津生乃羅波の露と風 まよけよ砂と白萬葉

拾遺恩皇り一きりとれみさう久水波よかすもえう今  
 残拾雜秋あらもう本草のはば夕附よすふくめを袖外 前御賀宣  
 拾遺貞空それすのくに叶ゆれ心ういゆうす本草もあ  
 同下 真言めうきよちきぬるまよすあやう袖わが  
 残古裏傷身とひり雪と處ゆかまにまよすさうゆめく  
 互葉於上月もまた朝もそりぬる名義 まよきふしのねあそく 廣義門院  
 風雜秋中吹きく風行乃あるるま月く まよきふくき松鶴の音 経子の親王  
 同秋下 雪れん草とそとそと我有のまよけよ砂と白萬葉  
 月清集上月のまむきよゆゆう星のまよ まよけよ砂と白萬葉  
 拾玉集七 ちれん風とあふき風をまよけよ砂と白萬葉  
 生三之上山生集上山生三之上山生三之上山生三之上  
 拾遺暮草喰ゆくもとてのくにりる山生三之上山生三之上  
 風雜秋下風よあくらるる葉の露と風 まよけよ砂と白萬葉  
 生三之上山生三之上山生三之上山生三之上山生三之上  
 新拾秋上あらもく風とあふき風をまよけよ砂と白萬葉  
 風雜秋中津生乃羅波の露と風 まよけよ砂と白萬葉

卷之六

卷之三

お遺物草木としまくもといあまの波止と山の白雲  
後吸拾え タやまより お波止と山の白雲

好忠

辛故秋上  
吹風もれ布の下とみる  
まう紀はうせぢがさう若木不絶か  
指玉集三  
りり今多やうてあともて  
まうひ乃まめとすらん  
壬生ニ上  
轟きどりもれゆすゆま安郎雲  
まう紀の外よさうり也

拾遺集上 秋の月夕よきやとよひもひく やうれいの行はようせきえ  
風雅雜中 雲がうきもくねをくもあく やうれいのゆけよゑあがり 太上天皇  
拾遺集二 分のうきよん乃なとくもあくまく ようれい竹よ教をくよ

同三  
君うよくらまびりあくやう また行はる  
月清集上 わくをとくめぐらまきせと  
また行はる風のひだ

生立上  
拾玉集六  
卷之三  
よりれ行のあくを  
拾遺食上  
あくは今朝の雪のいぢりと  
もうせけ行のあくのよ

新古今  
あけやみねまくら本よゆるな  
まくまくたはれ雪の下に  
拾玉集二 雪姫ゆきひめてさくらむね  
まくまくたはれ雪の下に  
まくまくたはれ雪の下に

月清集  
拾玉集五  
秋の夜とて  
我宿此  
波の聲の如き  
ゆめの如き  
ゆめの如き

This image shows a vertical strip of aged, yellowish-brown paper. The paper has a slightly textured appearance with some minor discoloration and small, irregular holes along its right edge, which could be the result of insect damage or environmental factors over time. The left edge of the paper is bordered by a dark, vertical line, possibly from a binding or frame.

川清集上りつゝとおもひとすす雲ふ難ばくのを絶ゆ  
拾玉集三庶の春と山のむらさきまき難ばくよす秋風  
新拾杖上只へもくくもそぞろの山里乃難ばくはれ秋風をく

月をみて風をもて身を夢め難れどもに思ひを乞ふ  
残る難月とみゆきのこゑ人多喜の難れどもかくも  
同

後拾遺枕下 我のあやかしよりひよまれ  
難いきともうつてゆく  
拾遺え 却衣冠をけりかきのみちされ 難のまゝの浪とぞ思ふ  
古今を盡りさせことなくそよぎの  
難だらまのまゝもゑせ

壬生ニ忍中 あめにかづく御心持テモ  
難れ候事と申すが如き  
御座候事下 えのうおもてまつておる事  
難也月の三日もしくは  
少々葉大止 おもてまつておる事  
難也月の三日もしくは

秋も冬も霜も雪も冬も枯葉も難物のものあらず  
大徳院後光

卷之三

卷之三

勅書其下 かくもくちの雲と見ゆ まうひとみのをとお右京  
新葉草 ちかれ風上の日暮は晴よから まうひとみのをとお右近太内長  
後拾其下 雪とのててもくよ面雲 まうひとみのをとお左近ふる敦  
朝古事下 初唐山うづよ見よ其下 まうひとみのをとお左近改太政大臣  
勅書其上 絶くよ前引雲れあづれく まうひとみのをとお中  
壬生京中 え初引雲れあづれく まうひとみのをとお中  
玉葉雅み 情くぬ令下あづれく まうひとみのをとお中  
同雅二 され棹もほもすとれりとまき まうせきれねきせまく 作勢  
風雅草下 みくじてもとくものむのむ多 まうせてくす波の川舟右尔又、陰  
子載み あくらまくすくまくはくまくはくまくはくまくはくまくはく  
拾玉集七 もくらまくはくまくはくまくはくまくはくまくはくまくはく  
猿々野旅 雪乃うちよじくはくまくはくまくはくまくはくまくはく  
风雅雅下 佐山うづよ雪よけとえく まようぬまのむくまくはく  
拾玉集五 因入くわくはくまくはくまくはくまくはくまくはく  
玉葉只教 おもまきくはくまくはくまくはくまくはくまくはく  
新拾雅 おうぬめられしよとみくとも まよつねくめがたとそよ  
毛載雅上 同教入め後 ありふれ まよつんやまけいまのす けや慈因  
山家集下 えよそうちあらわ月夜 まよふむじまとく

卷之三

25

拾遺恩草上玉をひるまうよう様花

みひつねの草うあひくさ

残子草下いりの雲舟れれあれハ又はうよあはせちとをた近大和教

收拾遺草うりつてとをもむのとまえみはつよと別ゆう御

承應法師

新拾羅族毛うわんを約月れりまもまたけうめうじの余

本中納言家

長秋詠草申ぬすうち秋れど秋とねさまももととまもむかわ野外

壬生三豆上

左近大和教

残子草上うみまたくやくとゆきのと

スカヨウ中ひきうよ

行中納言者

新拾古御宿玉葉冬々

今しよとひあくとく浦あく

赤瀬萬

新拾古御宿玉葉冬々

もともねやねすとひ

承應法師

風雅冬

つとくすまへれあま川

そもみのねやうる人

若原為朋

新築古紙  
手裁尺教  
世と勝を佛めうりありせれ

みもえとせんじて和  
和氣種成教

新拾志二

いげりけつよみてま事と

あそりゆるか  
前大僧會惠

新葉志三

秋のあそもみえち廢

まぬ食はるゝある

新葉志二

うかがひきのちうらのそ

まぬいくとそる人

卷之三

十一

入道か太政大臣

残り拾ふ事  
又りかよまくへゆるも 道が古政事  
拾遺草紙むすび聖乃宿ともあひぬるをゆき若妻や翁也  
詮拾集上 喜びまくるのまやうもんも もううらはれ武芸道のま 土門院に製  
拾遺哀傷爰みとちゆきしをかどめ ゆりゆめにぬをかずた 茄不相如女  
残千難中 いとううとうねりもんと改て ゆりゆめう雲めりくら おほむち充々  
向花雜上 祇五月ありのをれもくと 又りゆめぬんやうもん 赤深湯つ  
新拾雜中 今へえりうき老のほえそ 又もゆあまくせらあら お大僧正道能  
風雅雜上 菅野山花のあすのゆもや ありまのうめぬまくら お大僧正道能  
残ふ笑 ふせふき君の幸よくゆ 又まけのりくまくわ推案 中行祐款  
拾遺集二 待えうらうわよとそん まきうひすと天乃もと  
新拾文 午あまうとゆとゆとおとおのよ スクレケラのくと お太納であ  
拾遺哀傷なぐくの空よつをくちきのふくうといふは よと今く  
残拾雜上 かひうやゆるくおねども ゆううといおもくとくを お太納であ  
風雅卷三 えくとよおまのひくまくわ 又がくまよおまくとく お道元親王法守  
主生二不上 郡云ゆそづまかのとよ 又がくまよおまくとく お道元親王法守  
残拾集二 そぞくまくわよおえでを スケキとじきとくの月 指中學之雄  
新拾雜中 おの亂れ吹きと大体まくわのひくをのれ行右方下

卷之二

十一

残ふ足おまづくの道ありせむ  
又もくらはれりとれ 徒天門院  
残拾罪秋 天河八十ばかり老乃る  
又もくらはれりとれ 市大納言乃る  
残は撰臺 又は達力ひづるをやがくに  
又もくらはれりとれ 金佐位成実  
残ふ名に ま事へをくはれ 稲のそくに  
又もくらはれりとれ 金佐位成実  
残拾罪妻 うかくめくらぬねのうちあよ  
又もくらはれりとれ 明紀  
残拾罪妻 うかくめくらぬねのうちあよ  
又もくらはれりとれ 丹波長朝  
残ふ妻下 あくとておじり其の付  
又もくらはれりとれ 丹波長朝  
残拾妻六 枝えぬちまへ上妻あくとて  
又もくらはれりとれ 丹波長朝  
残ふ罪中 せとてひきとく雲へよ  
又もくらはれりとれ 丹波長朝  
拾遺臺雲へうべきよも様  
又もくらはれりとれ 丹波長朝  
残ふ罪中 我君のやくもをくよもく  
又もくらはれりとれ 中原作業  
同秋下 いのり外山の雲へひと  
又もくらはれりとれ 丹波長朝  
拾遺貞坐 うくまくみく八月のひとて  
又もくらはれりとれ 丹波長朝  
新古秋上 たゆういた秋の寝坐氣聲  
又もくらはれりとれ 丹波長朝  
拾遺貞坐 うくまくみく二月の月 二障院續  
又もくらはれりとれ 丹波長朝  
拾遺貞坐 うくまくみく三月の月 丹波長朝  
又もくらはれりとれ 丹波長朝  
新子罪上 けのまよもくうくみく三月の月 丹波長朝  
残拾罪妻 今もくらはれりとれ 丹波長朝







新葉離別日れとせふすとそひつる声又のわくせむか  
風雅卷二 よりゆくへまうとと西か多きと  
残ぬ撰卷三 残のをとむねうきむれまもひ  
軽拾尺教 そくきや経めう法の経とあく  
残千冬 治きむの経とくまの名残は  
新譜古巻 もうとむの夏の名残あむれむと  
残拾雜上 をのづく却よかうよ夏とま  
新拾詠 おとめうとくもまもむれむと  
周雅絃下 山陰やむよ此事のちあううまく  
同卷二 それまのまくもみのまくもまく  
新續古雜 稚ちうぬ方を高山よ入と  
金習 ねじゆのことをうきてまく  
新續拾雞糸 風もじと曉らくほほうて  
風雅雜上 猶もくひひまくとあやよ  
拾遺草下 老くせのとうりと方に見れ  
軽拾義傷 りくじゆうてきうわどその  
残ぬ撰雜 うれねよ今まくりうと老の場  
新譜古巻 もとのまのまくもまく  
前大紙をち民  
洞院後改尼寺  
前大僧正良信  
般若大寺入道  
あたびを

残古釋族 ちく雲とすあうゆどらひへ まよよてぬや うら寺院等  
壬生ニニ上 甚かとれりとへ縁多く まよ山里へんちうりそ  
新残古冬 立場尾上れ雲よほもれく み山ウラヌキレル耶 宗人法師  
新葉立二 じくひそよれりとへ縁せも すやひぬ中と成りん 久貞云  
月清集中 あきら入るをまうつきの 沖ノ園すきせとあを  
残子今 ほくうちのあくとまくとく みやもよの月とまくとく 残大納言  
新葉集中 九重の雲のうあう花るれも みやもよの月とまくとく  
残故撲革 さくねまくれとみとまくとく みやもよの月とまくとく 残大納言  
月清集中 ひく居てあくあけりとまくとく みやもよの月とまくとく 残大納言  
新故友 おのれの山とまくとくをまくとく みやもよの月とまくとく 残大納言  
新葉雅二 あくとまくとくとくとくとくとく みやもよの月とまくとく 残大納言  
同冬 ぬとまくとくとくとくとくとくとく みやもよの月とまくとく 残大納言  
新故捨冬 なうとまくとくとくとくとくとくとく みやもよの月とまくとく 残大納言  
玉葉冬 ひくとまくとくとくとくとくとくとく みやもよの月とまくとく 残大納言  
月清集中 上 いはくとまくとくとくとくとくとくとく みやもよの月とまくとく 残大納言  
月清集中 上 うれしとまくとくとくとくとくとくとく みやもよの月とまくとく 残大納言  
月清集中 上 えくとまくとくとくとくとくとくとく みやもよの月とまくとく 残大納言

新葉釋族 事後の室ひつあう戸内へと えあらとよかつゝるん 如羅法師  
新葉雜中 年あれひ思すむらうひやま まうきよとがふやびるん ぬ村上院  
回花秋 まうきよとは無事すむれれど まうすりて本事えう 源信院  
新葉集中 賦歌情こづくらうひやまて まうあくしめのうす雪 花園太良  
新葉集中 うづきすきとうねてもうとや まうあくせきとまくとん 侍従行家  
残故捨友 一とよあくゆとまくと郭云 まうあくせきと月はせ 千宣時郎  
新葉吉三 うづきすきとうねてもうとや まうあくせきと月はせ 法空慈惠  
残故撲革 まうりうれつは優乃被のうと まうあくせきと月はせ 法空慈惠  
新古尺教 まうりうれつは優乃被のうと まうあくせきと月はせ 法空慈惠  
残故撲革 まうりうれつは優乃被のうと まうあくせきと月はせ 法空慈惠  
使衣四 まうりうれつは優乃被のうと まうあくせきと月はせ 法空慈惠  
没捨道盡 まうりうれつは優乃被のうと まうあくせきと月はせ 法空慈惠  
鳳雅文 まうりうれつは優乃被のうと まうあくせきと月はせ 法空慈惠  
拾手集六 まうりうれつは優乃被のうと まうあくせきと月はせ 法空慈惠  
新拾雜上 まうりうれつは優乃被のうと まうあくせきと月はせ 法空慈惠  
主生一下 各川の水も竹よよかへま まうあくせきと月はせ 法空慈惠  
金葉冬 雪あれひやう山乃被のうと まうあくせきと月はせ 法空慈惠  
残拾雜秋 里人のかうすもうれつをまう まうあくせきと月はせ 法空慈惠  
椎本 雪あれひやう山乃被のうと まうあくせきと月はせ 法空慈惠

卷之三

٢٣

新古今二

法性寺道前板

新古今一 郭ふるゑとまきと花のえよ  
新拾玉下 雪とあづかねともあつもほをと  
新葉ゑ三 いまとつゝひのうとくはあらや  
金葉雜上 大江山いくせの邊のとくとくを  
捨達草上 すもひとあらもじうれ行よ  
新葉ゑ三 級わひよす月日かられ行  
新葉ゑ三 朝霞古雜のあらへきとくひく山  
捨達草上 雪ゆきゆきゆのうちもむだて  
新葉ゑ三 ちく彼のきりとくとくを  
捨達草上 とく細のきりんじにとくとくを  
タ穎 ち蟬のせうきりとくとくを  
新波難 今ううう海せのうとあらぬれ  
捨葉ゑ三 西野とくひとくひをすは  
山家集上 ひくまとうりすよ雪うで  
捨達難 うあくまくひそきてあらうくも  
捨玉集一 玉のうがく人よあひみて  
山家集上 うたとむらやとゆそとくとくを  
捨玉集一 うたとむらやとゆそとくとくを

月清集上 つすりかよ秋ひのうそ乃ふるよ えらむとおせをねば  
山家集下 さくらめの風ひづくぬれども みこじとせむへまくま  
月清集上 いとよちもほれづくとほくゆ みこじと秋ひ月もあらむ  
月清集上 かづくら雲れどくよめぬく すまくあすす遠りゆす 帝は浮雲  
新葉をあがめ さくらめの鶴のも衣袖を みのあよとすまくわき 桂木納屋長老  
拾玉集一 さくらめの世の君のわねぢとも えんせよ宝くすみのく  
新葉を三 けやきさくらもはよもとめふる さくらめのくわにせまくわく  
月雅志二 えのひとまくらをくわくわ さくらめのくわにせまくわく  
新葉を三 さくらめのくわにせまくわくわ さくらめのくわにせまくわく  
月雅志二 いづくわくわくわくわくわくわくわくわくわくわく  
月清集下 けづアミの曙ゑよとすく えのひとまくらをくわくわく  
玉葉秋下 カハカセオサクモセの思ひな えのひとまくらをくわくわく  
弦は松琴下 ひきち風れくわくわくわくわくわくわく  
月清集下 たうのうえまくわくわくわくわくわく  
玉葉冬 えのひとまくらをくわくわくわくわく  
新葉志二 おほひとまくらをくわくわく  
拾玉集四 さくらめのまくらをくわくわく

後は拾志一とその世をひしむつてきり。又ひまうん里ト  
風雅高文。あひつゆもとうもかうとも改。又うへすまともとくも。新葉  
拾達草車せよ神よせのじと本あり。又すはよもやうをかく  
新葉文。おとくよなつまうとくともがち。ゆそつづくもものうち。涼泉文  
残拾互。いふべくさくらうと郭云。もととがくえみかをもじ。右急流を基氏  
残ふ。初放とくともやきと郭云。ゆそつづくもものうち。左  
新葉拾羅春矢因の時。筆事まくと極矣。またとれのくせの筆。左  
新葉吉三。かくもと思ひるもの教をまく。もととぞうまくの斜ち。右義行  
新葉文。郭云名跡の意をもくすまう。またとぞうまくの斜ち。左義行  
新拾上。山様さむに重ねぬけり。またとぞうまくの月。右道ある故  
風雅集トうみをやれ。絶の白板とよ。生とぞうまくの月。宮太度多幸慶  
残拾撰互。名のやうもあらわとあき様のと。またとぞうまくの月。頤教門院  
千載報上。足安乃山のととくもじと。またとぞうまくの月。惟明親王  
新葉拾羅春。足引の山のととくもじと。またとぞうまくの月。静蓮法師  
新葉拾羅春。つととぞうまくの月。またとぞうまくの月。大納言公  
同報下。せゆとぞうまくの葉もとばく。またとぞうまくの葉。あらわ  
す葉もと。表とよとの葉もとばく。またとぞうまくの葉。あらわ  
新葉文。清風の月とつれさき。あらわ。またとぞうまくの葉。風  
新葉文。清風の月とつれさき。あらわ。またとぞうまくの葉。風

卷一百一

勅勅雜一 吉野山も御もあくよまきり又あくらむもぐ  
月清集上 殊地も山もれ乃主様 又あくらん事ひる  
壬生三家中 ひのくやうれいきよまゆるゆき毛戸ノ月をさしけ  
残す事ト 月影とかきとよみとせられ あるわびやくぬまくらむ 佐見院ち期  
新拾高四 かの世よい事うぢとせらそ すあふまでハ思ひだよき法服聖義  
残後續羈縛 七月へあうよゆけり今下え すあふまでとねりへりめ 伏下耀清  
新拾難刹 まのますよこれあらせましも すあふまでとねりへりめ 伏下耀清  
捨送毫華 てのほもひよ心絆きさわく 又あふはれ難清も元  
月清集上 ありしれの神のうら香燐そく 又あふまで形足すま  
残す事四 ちうあくそびせんとせうげり 又あふまで形足すま  
長秋詠謡 シテナ人の古今アシキト  
風雅詠 じゆくとれどももくも老れれ 又あふとといふとも思フ 佐見院  
新拾難刹 あくらうりふれとたぬまく ゆあふとと勢うきくらん あ中慶三基  
新葉急四 ひよせく浦乃まくあうが況 又あふとと勢うきくらん 中慶三基  
新拾難刹 実の事うじめぬ代えを立候り 又あふとと勢うきくらん 平宗宣  
落拾難刹 あくらうじ今有ひうめぬを立候り 又あふとと勢うきくらん 岩本家業經  
同落四 夏支也と思ひよまくぬを立候り 又あふとと勢うきくらん 横中慶三基

残候拾糞傷かき人の影やひみん岩清も又あまうせせきをこゑも 信主は仰  
残古冬 てすあれへあうふるよさうスあまうて雪ひちう雪 未開の處下  
残候拾糞傷ひきやあじともちきりまく又あまうせせきをこゑも 在る雅頭  
金葉列 人ひき我よりあよもうちう風又あまうわづまちうま 岩を実舞節  
手載韁 ひきまきが乃浦川を過り又あまうとめあり地とひ 幸惠軒  
新候拾糞 今ありてヨリテモトモアリス 又あまうとめあり地とひ 幸惠軒  
残古鞆旅 衣ありをみとめらむ所をちゆ 又あこうて浦川をさん 在る幸惠軒  
残候拾糞上 風のまもの印もくわんねくわん 有るあきらあめのもの 徒三位経  
残候撰琴 ひきすきをねくわんに あるあめとねあくすき 甚後  
拾遺貪坐 人もみの情えきさせともみ 又秋乃也は風も澄めり  
新候雜一 老ぬきへうとううと身ひく 又あまう月をみうる 正三位勘定  
拾ふ集七 雜波ひゆタ乃雲よ射とき 又秋をよ々事のそら  
残古巻傷 まことにだらうとも笑ゆ下 又あひくの世をうれ 三峰右介  
大和物語 と風くひだらうとも笑ゆ下 又あひくの世をうけ  
山家集下 たま名こそもく風のまよひ 真あいわぬ處するわと  
残候撰琴 老てこもくわくわくへれくれ 又あひくとあくわのほ 桂僧は承  
新年をあ あらうせあくわくもあきと あひくとあくわのほ 信主は仰  
残候拾糞 老てこもくわくわくへれくれ 又あひくとあくわのほ 桂僧は承

毛並葉雜身 ちうりと忍ひのまく夏待  
残波理三 もかううわ心とももあすと  
乾後志四 よふあくゆうのよ立松を  
風雅志二 いひまはよりひたぬ今春  
山家集上 こけく古里とみる風あと  
む葉志三 あらひとまの夕暮れをまき  
風雅旅 もきのう霧の街に下りしね  
新後志上 おちひきまくらをと着乃  
捨送貞外上 つれのくや向てくさん郭云  
捨送西至 山のものあさりの雪よ郭云  
新干志三 きのあくらぬつなりとかくひ  
捨送霜去 駕をくじ雪もあくらぬ  
土生二事中 きの居あられ西のあくら  
捨遺志上 ほくと称されまきれもあくら  
新拾紹上 ゆき山ふ葉吹むる深木下ふ  
む葉雜一 ねくらぬあくらぬ花のじうく  
風雅雜上 まく葉ふも秋の色吹をとあくら  
新後捨春上 捨吹の春の未めきをうすと

又あひとくのま  
又あひとくとらひかうぶ  
又あひみとちやせり  
又あすらふうりこま  
又きらまするのひ  
又きらとものまつるじ  
またとときのたま  
またとちむねむちに  
あく黒れぬそのま  
あくわざとくわざ  
あくわざとくわざ  
あくわざとくわざ  
あくわざとくわざ  
あくわざとくわざ  
あくわざとくわざ  
あくわざとくわざ  
あくわざとくわざ

後人不知  
誰少繼  
中絕者多矣  
承獨門院  
院新壁相  
如故之陳設  
左案李耽痛  
圖照清節  
辛朝貞  
從二位家達

主生ニホ上 あらうのまよすれ西ノリや 内は嘆切の流れ初見  
夕空 うるまくもじりあきこゑの遙スカマハ室のひそと  
金葉臺上 あきゆめあきもとくね冬のめまくはとゆす下山 茶青文角竹  
あ秋をえもあきそほせりとほぐすまくはたよがくろくめ 惟宗廣言  
併勢物候 看もありきつよもとあてくわら まくはよがとせみゆう  
ふ哉冬 かふくのめのせ乃きまきけも まくはよがとせみゆう 和泉式ア  
残古え なきいもととまくは風の もくはよがとせみゆう 法本の左美  
えもんはととまくは風の もくはよがとせみゆう 法本の左美  
金葉がち まきまてやくまくはあき雪の もくはよがとせみゆう 宇治道前留  
拾遺貞上 引くまくはあき雪の もくはよがとせみゆう 大政大臣  
新残古辭 まくはよがとせみゆう まくはよがとせみゆう  
新拾野猿 ぬめとぬりとの里へおまと まくはよがとせみゆう 春室春之實  
及撰林中 ときあるひあれよもくアラム まくはよがとせみゆう 右大臣  
拾遺貞上 かく乃男ちのふに遊ぶよき まくはよがとせみゆう  
長秋詠藻中 水の面よあれ日ねとまき まくはよがとせみゆう  
新残古長傷 さくやまくつるをとまき まくはよがとせみゆう  
拾遺思草 萩のむすみまくはよがとせみゆう まくはよがとせみゆう  
拾遺別 まくはよがとせみゆう まくはよがとせみゆう 中原勝高羽上  
拾遺別

山家集上 とひかやと木葉ようづれ  
壬生ニシ中 常とよあゆの河津のうきわ  
あまき序き書き事あひのえ  
あ我矣 秋風いはとりやうめん  
まきにすとておまかね山 在原親盛  
残は撰がく君代の事よちきわる衣もれ  
スとまきのまうながれ 大地言後明  
松玉集ニ きみよよかのうきとひ歌  
又行ま乃らうしてう那  
新ふ色三 をあつて今向むえ下りせん  
かくもう雲もつゝの巻きて あまくともも雪あき  
玉葉旅 かくもう雲もつゝの巻きて あまくともも雪あき  
壬生ニシ中 八月のとみ あたたか  
残拾志三 ろうひくもぬねあまよそも  
スナミよ教みうち  
壬生ニシ上 畏きとれひくよすりも  
ゆき雪ぬくに岩ぬけを  
残古志二 ほきのちきぬくよすりも  
ゆき雪ぬくあひもくぬる あゆまきのと  
新歌拾志 うちもくきくひも羽のぬめよ  
まきゆきもくききえを ようくうく  
残歌撰墨 すまき何ばうもとあいほ  
山家集下 おほきとすのゆきよ風まく  
拾遺墨草 こゆくよすやゆきよ風まく  
山家集下 松浦歌とおまじれのよ  
拾遺墨草 秋とくとくけ引きく  
壬生ニシ下 松浦歌とおまじれのよ  
ゆきよすやゆきよ風まく  
残歌拾志 いよせんとがく此別モ  
又ううあよ金すくはる 在原親盛



明石

卷之三

3

三

11

三

1

1

1

後子秋上 山雨り晴れむれくや 又ちば綠のをまつし 指僧正桓守  
拾遠芭蕉中いづれ世ゆてもれてゆくゆく川井の 又トクナモトモトモ  
長秋詠藻下わくよもくくねてまくと まくもうえとく色えとく  
新漢吉志西多きそひの心乃あくよくす みちかのせきへまく  
残古志一 みぬをひひとよるぬ黒に まくもくぬもあくよく 淳滿元朝片  
拾遠芭草下うきゆきまくよみぬをくさ ゆきもくさくとものゆ  
風雅志一 ほよてぬとくかくとそくされ まくもくじ人のあらわ  
拾遠負望故もくはく乃くくじよ えの菊のあらわ 魔安門院  
残古志一 我のよやうううそん まくもくせうぐくを雲 侍従行家  
新千夜え あひくもくはくまくひくもく まくもくまくひくもくもく  
残拾罪下 まくもくなれん人乃西うけと まくもくまくひくもくもく  
教奴秋上 奴とのむよ乃まくもく まくもくまくひくもくもく  
残子雜上 まくもくとくまくもく まくもくまくひくもくもく  
風雅秋下 まくもくまくひくもく まくもくまくひくもくもく  
丹波高長郎 まくもくまくひくもく まくもくまくひくもくもく  
前中興家 まくもくまくひくもく まくもくまくひくもくもく  
後毛彌院 まくもくまくひくもく まくもくまくひくもくもく  
後一位教良安 まくもくまくひくもく まくもくまくひくもくもく  
新は拾雞糞をさうあともかみ泥を まくもくまくひくもくもく  
拾玉集七 秋うそくもくもく まくもくまくひくもくもく

新葉雜上

嘆君れら風利ひあつてそ

もてれをどくそそ

狂馬歌

古今文

舟月のうちもすりあん時も

うすたほの歌とま

修勢

拾玉集四

そよみくちくまもん山福

ゆき雲とめまとい

雲

拾玉集一

夜をもふつまみ白氣

ゆき雲とめまとい

月

拾玉集二

残古秋下

まじれゆ秋の日暮へうづ

月

拾玉集三

残古秋下

まじれゆ秋の日暮へうづ

月

拾玉集五

残古秋下

まじれゆ秋の日暮へうづ

月

拾玉集六

残古秋下

まじれゆ秋の日暮へうづ

月

拾玉集七

残古秋下

まじれゆ秋の日暮へうづ

月

拾玉集八

残古秋下

まじれゆ秋の日暮へうづ

月

拾玉集九

残古秋下

まじれゆ秋の日暮へうづ

月

拾玉集十

残古秋下

まじれゆ秋の日暮へうづ

月

拾玉集十一

残古秋下

まじれゆ秋の日暮へうづ

月

拾玉集十二

残古秋下

まじれゆ秋の日暮へうづ

月

拾玉集十三

残古秋下

まじれゆ秋の日暮へうづ

月

拾玉集十四

残古秋下

まじれゆ秋の日暮へうづ

月

拾玉集十五

残古秋下

まじれゆ秋の日暮へうづ

月

拾玉集十六

残古秋下

まじれゆ秋の日暮へうづ

月

拾玉集十七

残古秋下

まじれゆ秋の日暮へうづ

月

拾玉集十八

残古秋下

まじれゆ秋の日暮へうづ

月

拾玉集十九

残古秋下

まじれゆ秋の日暮へうづ

月

拾玉集二十

残古秋下

まじれゆ秋の日暮へうづ

月

新古冬

まじれゆ秋の日暮へうづ

月

月

院淨製  
院淨定  
院淨定

皇慶季春後

新古雜上 又ひきり引くもあくもひと  
玉葉冬西 あともすくのまよまちと  
新拾三色のようひきくせよ  
え我ゑみ うみくまよつらうさん  
新葉友 事有りやあよほすを重  
強ふる傷 うじくひしつくね我おも  
新強古雜 いそくよううられ深くしん  
新葉三 うねのせにうちたてまゆま  
新故ゑ うなまく立つてもうほ  
長秋詠藻下 あきゆやいよじすく山安  
古今旋頭 初歌川のよ二をあひ聲  
強ふ友 美とあくまどめうかめ  
玉葉冬 葵とそよごときうれやぢやま  
新勅三 いふてさうあひのちを起  
新拾志四 つまなうむれ西朝のけづけ  
玉葉雜 かづくめれの角ひと茎あく  
凤雅志二 あきじやあうとほすく  
新故志四 桂はくれあぬの袖の袖を  
新葉志四 みるまくととを新  
左季文之歌情 みるまくととを新  
安嘉御集案 太上天皇

新千葉中 おとがてのゆきあり内室ノモリすと和子の波 永證上人  
新拾人方 あくへどもあか流のアキタ又せれのれの各門乃も 入道親王道  
新拾羅 亂世のアキタモヤイミクさん まことありもあひぬと 源松之助瓦  
新改志三 級とたひよとそひともせり まことほとくまきまくと 津守四道  
新葉意み ふつうとあつまは枝のを まことほとくまきまくと 後三位長宣  
新拾羅 まねぬとうと四下官川 まことほとくまきまくと 後三位長宣  
毛葉吹上 掉鹿乃聲まく時の秋山 まことほとくまきまくと 源松康  
月清集上 秋乃音冬乃聲とあまく 月清集上 まことほとくまきまくと 源松康  
拾達豪下袖の裏 まことほとくまきまくと 源松康  
弦古囂旅 まことほとくまきまくと 源松康  
玉葉衣 まことほとくまきまくと 源松康  
新改拾絆 あひ見ても根の絆だらもみ まことほとくまきまくと 源松康  
新葉秋上 あひ見ても根の絆だらもみ まことほとくまきまくと 源松康  
新改志四 めくても根の絆だらもみ まことほとくまきまくと 天暦佛樂  
新子志四 つまむひとのうなぎ下袖を まことほとくまきまくと 唐義  
新葉衣 ひくめうなぎ下袖を まことほとくまきまくと 小野小町  
拾達志三 ひくめうなぎ下袖を まことほとくまきまくと 小野小町  
新改拾絆 天河夢うかすすゆあすとくね、あうと

卷之三

新編卷三 律文多言をうりとるひまちやかよもじとせりん 徒ニ信光成  
新軒家え 達ムヘモテアヌル事あらむと 里内モイリモミルアラクル 梓中納言定義  
新編撰高セタトモテウツアシモサル オレモカトモシロモ也 小井  
同社難中 附モモ暗モクナキみがるモ おれな御の事モ先近中ね忠季  
モ葉玄四 ゆきアマモモモモモモモモモモモモモモモモモモモモ  
残古林上 七夕の夜やけりて天の川 あれちうちれん國とあはく 中嶽の秋  
新設拾え 多い程と詠よきを以て附モ あれちうちれん國とあはく 中嶽の秋  
新設足若 以ひとも我のねのひあはく あれちうちれん國とあはく 家業あゆ下  
新設勅命 うけの角ともそねわく内 あれちうちれん國とあはく 家業あゆ下  
残千林上 あくくううにうれしかりの あれちうちれん國とあはく 家業あゆ下  
新設古春下 ひま乃林とふとこ壁のつがま あれちうちれん國とあはく 徒ニ信光人  
長秋詠華 ひま乃林とふとこ壁のつがま あれちうちれん國とあはく 皇天寛不處  
新葉入室 はのあ下水とあひく ま神よ萬能者とあはく  
拾送臺塗 うのあうん翁の萬能者とあはく みのあうん翁の萬能者とあはく  
同下 あくくの外山の雪が多きも あゆも あゆも あゆも あゆも あゆも  
新設捨るつぬまくやゆちと あゆも あゆも あゆも あゆも あゆも あゆも  
新葉を三 級をもとみまへあゆも あゆも あゆも あゆも あゆも あゆも あゆも  
新葉を草下遠もあゆも あゆも あゆも あゆも あゆも あゆも あゆも

後古報上 なに山もあら松のみどりも ねはる風のまゝ けやく  
新古林下 やまとひもとすんまよふ 松はれめれぬゆゑ 皇室石室  
山家集下 うなみ又我まくそうみき 松はとどりようとと  
拾玉集二 君うくんあ代のあまととすまう 松はひくときすらこく  
後古報紙 もやうく神代ようへとこき寝ねひくまもす もと法事行法  
拾達三 細せよしとひまくまくわく ねはひくまもす もと  
新古報上 さひくちうあうふる寝くわくねはひくまもす もと  
新古報三 うすさあまくまくわく ねはよみのら風くわくめうと 有す仲間  
新古報紙 ひまくかうくあうの寝告れ ねよみくわく年くわくめうと 有す仲間  
新古報四 いあまねめくまのうすく ねはよみのくわくめうと 有す仲間  
月清集下 うすくらうてぬすくわく ねはよみのくわくめうと 有す仲間  
同 うすくらうてぬすくわく ねはよみのくわくめうと 有す仲間  
拾玉集四 いあまねめくまのうすく ねはよみのくわくめうと 有す仲間  
新古報紙 えうくわく君うくはくにほまれ ねよみのくわくめうと 有す仲間  
新古報紙 かうくわく君うくはくにほまれ ねよみのくわくめうと 有す仲間  
拾玉集七 うすくらう方代ぬてとまく ねよみのくわくめうと 有す仲間

卷之三

卷之三

新勅冬 王とあん人とも今かれて  
拾ひ集六 第一のばよすくよもに往告れ  
郭無所於上 清よしむみちて秋のなまく  
モ哉郭中 各けアヒトモモモアモアモア  
拾達郭中 各ケアヒトモモモモモモモモ  
新古モニ きくやいヌモモモモモモモモ  
拾達袁傷 ゆも衣あひひ下ヒトモモモモ  
新古モニ 袁流のうとゆまやモモモモモ  
新拾集下 范のうにあひよもモモモモモ

ねよとあらす。宿がくわん。  
奈良の家  
松よ翠りてりくわん  
松よととよゆかせきく 中務の宗良智  
竹よととよゆかせきく 法性院道前  
竹よととせきくもとめ 小人官  
ねよをとすくわいと まの御  
ねよかりてあくまでほ 大なみ基  
松よかりてひととくわい 疾部成仲  
松よかひきわいあくと 背之

新勅冬 畏とあんやも今かれをく  
拾ふ集六 君つはよつとよりへほり  
郭無所壁 清よしのみちにせんをく  
お我罪中 爰はアとどもやもつて書  
拾達難考 各乃アとどもやもつて書  
新古高三 まくやいよもくはあく風を  
拾達哀傷 ゆき衣あひ下トアヒセ  
郭無古臺 若流のうとゆきうきのえを  
拾ふ集八 若のうにあくよとくめの  
同六 あらまくあひ下とゆきうきのと  
玉葉詠張 極にちあんほ乃かくよと  
拾達対 あをきくん若うかきくくち  
郭族古草 うれも又死やうへんほお乃  
拾達難 あくひうれくみりせて表す  
孫古秋下 あくひうれくみりせて表す  
玉葉詠張 おひくよみのうきくめの  
孫古秋下 あくひうれくみりせて表す  
郭ふたみよき山の里乃  
新改撰文 郭ふたみよき山の里乃

新拾秋上 魏林も既ねむぢやセタモ  
拾遺毫草 秋とソス人乃ゆアテクモ  
行よもまらぬ月れケ外  
新古賀 オトムニアリモ此あき緑  
残す事下 案より若ち主にうちもて  
ねよモロヨリ也モカホ 宇迦言羽忠  
拾玉集四 若の花著まにちよ其山  
新勅冬く 吹しまよ御ハシヨロチモキ  
拾玉集七 ハクハモアレニ岩モマヌ  
松よモカセアヌモカマヌ 太子内親王  
新ふ御紙 ゆうはくスの多みモリナリ  
拾遺賀 嘴にシカ若モクンと其日  
拾遺草事 やとモシ却ハモクルモリト  
同下 露附多リヨツニキ林山  
壬生三书中 未モレヒ浪モチユム行者  
拾遺冬 先まみハ光の多モハナムミ  
拾遺三 つゝもスヤハクヌト思フリ  
郭は拾遺三 つゝもスヤハクヌト思フリ  
手裁友 二アキトモモヤマヒ歌云  
金葉友 みをよモモキモヤムソ人時  
壬生三书中 漢は漸やうもの山河幸モ  
新拾秋上 魏林も既ねむぢやセタモ  
拾遺毫草 秋とソス人乃ゆアテクモ  
行よもまらぬ月れケ外  
新古賀 オトムニアリモ此あき緑  
残す事下 案より若ち主にうちもて  
ねよモロヨリ也モカホ 宇迦言羽忠  
拾玉集四 若の花著まにちよ其山  
新勅冬く 吹しまよ御ハシヨロチモキ  
拾玉集七 ハクハモアレニ岩モマヌ  
松よモカセアヌモカマヌ 太子内親王  
新ふ御紙 ゆうはくスの多みモリナリ  
拾遺賀 嘴にシカ若モクンと其日  
拾遺草事 やとモシ却ハモクルモリト  
同下 露附多リヨツニキ林山  
壬生三书中 未モレヒ浪モチユム行者  
拾遺冬 先まみハ光の多モハナムミ  
拾遺三 つゝもスヤハクヌト思フリ  
郭は拾遺三 つゝもスヤハクヌト思フリ  
手裁友 二アキトモモヤマヒ歌云  
金葉友 みをよモモキモヤムソ人時  
壬生三书中 漢は漸やうもの山河幸モ

卷之三



類句

徐季廣

残ふ羈旅 別後是今となくもし君とく  
用清集上 うれ秋のふるみもようじうん  
残ふ左 明方よ和音へせぬやうきし  
新古集上 わまきそゑよくせうすの間  
残ふ右三 今更よ思ひつゝもだねま  
拾遺雜上 いそねよく身よがてたむら  
合集上 かくまよがてたむら

廣東

類白

大納言經信

同四  
新葉友 俊吉のうのうみの新葉は 松風うひ冲の山波  
玉葉雑三 あかねのまきをもせよもひの 松せもすらすらと ほ  
新葉之 ちせきの君をむかへ松の森 ねをせなしてとくまほ あ移政たる  
玉葉秋下 あせきの君をむかへ松の森 ねをせなしてとくまほ あ移政たる  
拾玉集六 あせきの君をむかへ松の森 ねをせなしてとくまほ あ移政たる  
玉葉秋下 入月れもうちの新叶春よみて 松をせくとき林の山と おふる家廢  
拾玉集三 あせきの君をむかへ松の森 ねをせくとき林の山と おふる家廢  
玉葉秋下 あせきの君をむかへ松の森 ねをせくとき林の山と おふる家廢  
拾玉集七 あせきの君をむかへ松の森 ねをせくとき林の山と おふる家廢  
同四  
凤雅之二 うりよてくやがたれと けよしよタスのを 永福門院  
月清集下 うりよてくやがたれと けよしよタスのを 永福門院  
拾玉集七 南無阿弥陀ふそくと新ちうねとうりほれとみまつや うら金子次  
改撰本一 俊吉めうかちうせんともねとうりほれとみまつや うら金子次  
新勒志三 たのうてこあせつうれと けよしよタスのを 永福門院

残拾冬

江流やもれりとて秋の浦風に  
新千秋上 風もくと霜もくと雪もく  
新千秋上

拾玉集七

君代とまよ年とまよ  
明石

竹河

新孫か美  
新孫か美

風雅集上

あり日ひうつすまくとて  
玉葉集下

新葉集上

あらわすとておのれのまくとて  
新葉集上



卷之三

卷之三

壬生ニニ上 きく風やさし雲若れノ衣 まゆうもうけた枝乃うを  
拾達高草上 あきみをまかひあきらひのよろ まくらもあくもの虎  
後後拾冬 あくみの年終アリモテモ まくらひとハ我當うち 中納すを持  
紅梅 心ありて風のうねす園の梅よ まくらひとせうを  
玉葉雜二 風よから月ハ粉のすよまきを ねのちくれひえふき  
月清集上 あくらうを月新やまびほくねの君林の冰代白波  
拾達高草申秋乃露ももか秋らく墨すね乃もも月のうもも  
弦子秋下 神のうよなれももか奥方 ねのとよりはまの月 以も病院報  
壬生ニニ上 我袖へくらえと露ももか 岩乃孝善  
あ載が葉 君う代よううてつもくねと乃 ねのとよすとトをまつ  
玉葉雜一 山室ハ躬結のまむらを金 おもく孝善  
金葉加一 けりう一个雪つまく君う代 ねのとあく風をあひ  
壬生ニニ上 も葉吹下 ちか乃瓦上壁もくえくは れのとあく風をあひ  
同中 吉野山書院の丸太屋 ねのとあく風をあひ  
新後拾禁而よなら新へあの向とあく風 ねのとあく風の月 本大納ニテ  
同上 吉野山とくも雪のうすアリねはとあく風の月 はま種種  
風雅冬 座つて雪とて雪とて舞ふるねのとあく風の月 通命は所

主生ニ下 オ浦海アシマツシマとみち名ま 松マツひとみきわく海シマ

月清集上

詩四百いく多れ小秋絶アキノツヅクねれかとすもてすと  
うもと雪落アラシタカ君代シロバシ松の廊マツノロウねのと  
新古雜上

新古雜下 君人シロヒトをせよ各オハシと  
新古雜中

新古雜

我老シロシロをとどけておる

拾遠雜

ひりりてせよつまち物モノ

拾遠雜

をとよとすわうつなき

同雜上

拾遠雜

ひりりてせよつまち物モノ

拾遠雜

をとよとすわうつなき

入道叔阿

典侍光子

前大納言世

後村上院製

ねれ戻すのれす

ねれとぞのれま

松の葉マツノヒもとあらわす

一

松の葉マツノヒもとあらわす

二

三

四

五

六

七

八

九

十

十一

十二

十三

十四

十五

十六

十七

十八

十九

二十

二十一

二十二

二十三

二十四

二十五

二十六

二十七

二十八

二十九

三十

三十一

三十二

三十三

三十四

三十五

三十六

三十七

三十八

三十九

四十

四十一

四十二

四十三

四十四

四十五

四十六

四十七

四十八

四十九

五十

五十一

五十二

五十三

五十四

五十五

五十六

五十七

五十八

五十九

六十

六十一

六十二

六十三

六十四

六十五

六十六

六十七

六十八

六十九

七十

七十一

七十二

七十三

七十四

七十五

七十六

七十七

七十八

七十九

八十

八十一

八十二

八十三

八十四

八十五

八十六

八十七

八十八

八十九

九十

九十一

九十二

九十三

九十四

九十五

九十六

九十七

九十八

九十九

一百

一百一

一百二

一百三

一百四

一百五

一百六

一百七

一百八

一百九

一百十

一百一

一百二

一百三

卷之三

拾玉集二  
久りゆきいのちをせぬくも  
ねのあすれ秋こよみ  
ほ撰雜一  
ひき梓公もへと老よゑ  
ねのうづくちにうつ外  
かく  
新拾雜中  
み代坐て君よつみてうもき  
ねれどもくまひき  
閨道あら  
ほ撰をふこもやあんきやまとの箇の  
ね乃うろとらひやうえ  
まくも  
拾遺草  
もくもむかしも日暮もつりあそ  
ねゆるがくまくも  
拾玉集七  
海うけもあよはゆくあら夷  
ね乃情もくもくも

夕滿れ殊ふ春昇る地へも  
松竹柳え又も秋の望  
拾達え  
すまほ此暮れをもめの  
松のこゑきよきひまむし 幸くわゆ  
拾玉集五  
山川乃より清まゝわく  
松竹柳よ春もくく  
吉野山花いあくと同もく  
松竹柳よ春むらわく

同二  
年既て嘆有ち多乃いうれ  
松乃松より初夕  
新故臺下  
身風をかくともみせすちか乃  
松叶至多之がる者流  
年忠威那  
拾玉集一  
さよへまた扇毛そぞうは筆舞  
松乃松よりうちあら  
松乃松よりうちあら

新秋林下  
絶乃の角余秋代のとて  
ねのとをもよ秋風う吹  
絶一位都陰  
拾疎西堂  
えの月のつる山みちともすき  
松乃木末よ秋風う吹  
君故きのあみとゆきう風  
松乃柳よ秋やもすき  
同  
拾玉集三  
ちまくせをひいよ絶者  
ね乃あまく家乃、  
義

は根葉一  
木をよみあひひうちとれり  
松の木とよもじらゆ  
月清集上  
祖乃吉の歌の處より  
は松の物の夜ういぢ

新拾冬 氷もれかもの御山に  
松のあと葉も雪落り 源頼貞  
新葉秋上 月はもや山のもやまもやれて  
ねむあるふる御子をよ 信重・実興  
月清集上 名跡ゆきとくもや郭云  
ねの嵐よ鳴てとくも  
拾玉集三 山の緒よあそ入ゆう月影  
ねのあそよみくちく

長秋詠蘿  
今もういはうすひ秋山  
松のあくよみの月の月  
拾達自外上  
松のあくよみの月の月  
拾玉集二  
吹きあけ代はつふ経苦れ  
松のあくよみの月の月  
新拾雜中  
まちのじゆは松とゆゑ  
松のあくよみの月の月  
あたかめあ

風雅族 やまとかずとすとひきく  
松のよしのあすまたに 岩本酒屋  
椎本  
君もこそ山のひを珍り  
松の香ともあらむ  
残る機知 細々とせうせん作  
松のみどりかくす世も一時大傳都  
墜

拾遺雑

ううれしの風一年を

ねのやうへか

不宰師資仲

新殘古集上

一はも見る深あぬちゆる

ねみうらり

慈隱院前室

同

君うふとせの葉絶筆も

ねみうらり

内大臣

新拾契

君う代とちみくとくとく

ねみうらり

慈隱院後

金葉手

君う代とちみくとくとく

ねみうらり

慈隱院後

拾遺雜春

君う代とちみくとくとく

ねみうらり

慈隱院後

拾遺雜下

君う代とちみくとくとく

ねみうらり

慈隱院後

新殘古集

君う代とちみくとくとく

ねみうらり

慈隱院後

拾遺雜春

君う代とちみくとくとく

ねみうらり

慈隱院後

同冬

君う代とちみくとくとく

ねみうらり

慈隱院後

山家集下

君う代とちみくとくとく

ねみうらり

慈隱院後

拾玉集下

君う代とちみくとくとく

ねみうらり

慈隱院後

拾玉集一

君う代とちみくとくとく

ねみうらり

慈隱院後

拾玉集二

君う代とちみくとくとく

ねみうらり

慈隱院後

拾玉集三

君う代とちみくとくとく

ねみうらり

慈隱院後

拾玉集四

君う代とちみくとくとく

ねみうらり

慈隱院後

拾玉集五

君う代とちみくとくとく

ねみうらり

慈隱院後

拾玉集六

君う代とちみくとくとく

ねみうらり

慈隱院後

拾玉集七

君う代とちみくとくとく

ねみうらり

慈隱院後

拾玉集八

君う代とちみくとくとく

ねみうらり

慈隱院後

拾玉集九

君う代とちみくとくとく

ねみうらり

慈隱院後

拾玉集十

君う代とちみくとくとく

ねみうらり

慈隱院後

拾玉集十一

君う代とちみくとくとく

ねみうらり

慈隱院後

拾玉集十二

君う代とちみくとくとく

ねみうらり

慈隱院後

拾玉集十三

君う代とちみくとくとく

ねみうらり

慈隱院後

拾玉集十四

君う代とちみくとくとく

ねみうらり

慈隱院後

拾玉集十五

君う代とちみくとくとく

ねみうらり

慈隱院後

拾玉集十六

君う代とちみくとくとく

ねみうらり

慈隱院後

拾玉集十七

君う代とちみくとくとく

ねみうらり

慈隱院後

拾玉集十八

君う代とちみくとくとく

ねみうらり

慈隱院後

拾玉集十九

君う代とちみくとくとく

ねみうらり

慈隱院後

拾玉集二十

君う代とちみくとくとく

ねみうらり

慈隱院後

拾玉集二十一

君う代とちみくとくとく

ねみうらり

慈隱院後

拾玉集二十二

君う代とちみくとくとく

ねみうらり

慈隱院後

拾玉集二十三

君う代とちみくとくとく

ねみうらり

慈隱院後

拾玉集二十四

君う代とちみくとくとく

ねみうらり

慈隱院後

拾玉集二十五

君う代とちみくとくとく

ねみうらり

慈隱院後

拾玉集二十六

君う代とちみくとくとく

ねみうらり

慈隱院後

卷之三

三  
九

拾遺集上 又のとた原のへよ年へめ  
長秋綠藻 善よともちまくさうせ事  
徇花名 郭もあらわらそひよめす  
拾玉集一 いづくよゆくしてうち舞  
徇花集 あらわの其にまみとだよき  
残拾紙 滅とよどゆくかほ吉の  
拾遺草 犬もあらわとねむとよき  
新千雜上 清乃く室うつ外もいがる  
蓬生 ぬちくはうすまくくえふ  
残古魚口 うへてもおきとよかの思  
手裁架 あせもとしへき宿ようつれ  
拾遺草 ちかく處乃うくのちく風月を  
ふ裁交 もやせ月とだまのり精ひる  
後拾遺舊 まみえひくのうすて石  
月清集下 郡よは河舟ひくもくす  
拾遺草下 ありぬるう行のと風月を  
御花雜下 とくわうとくちうれ経去北  
赤深井

卷之二

四十一

新後拾糸春いく朝もあるよきみ子奴約まとひのかはりもひどく有る承行  
後撰哀傷女郎花うみのよまきひとまくもれとまくとよひを政大臣  
新拾雜上寒風のひよひたすす柳をもうさくかくめむらちよんニ浮遊親王ち貞  
拾玉集三竹あそく家かくはくはくとて先づく故に常へて之を  
新拾糸春上巣乃雪のかとひすもあくみ、里もあくさりと向ふ梅え  
新勒羈族別緒ともいふはまもはま士生三ふ中甚玉の年もうもくの墨雲  
拾遺眞外門とふを起ひ事ともやまく人松まう簇のとひゆく  
新勒雜三鶴かくはくの我力と至たるもやきよりと金をもさき  
拾迷忌草池水よと風うきよぬつと見もむや初つ  
土生二ふ上ひすひと見もじしものまよぬつと見もむや初つ  
新勒古讌今ももまとまうづりと附てまつゆとまうづりと風深秋  
千載社上わことに秋のうきよとまうみうじの葉の上を立教の行宗  
拾迷忌草おもひく門そひ柳あく風よまうみうじの葉をうこ  
残ぬ拾糸一物もよそうひとよあみうじの葉をうこ

凡雅卷二 なみや様くらくぬひきもやま 納物のとよひやま 永昌院  
御花文 もくに色あゆぬうかよ郭云 けふころをうつてうれ 挑防内侍  
捨遺草上 ときめくまくうつう香うみぬ 門うらるく郭云 う  
新收文 落うけ下よ清あひうくとく まくはらじよのたま 岩原秀義  
捨遺草上 風うよ扇う秋乃きそつわく まくはらじよのたま 岩原秀義  
残古尺教 かくしげもきねすねをえぬあくまくもうちねを はく良覺  
捨遺草上 朝月さすくすれどのきうす まつあくうす雪の下草  
同中 秋風よそよく風のぬいのよ まくあけむがくうか多  
新收文 子親ととまれ山よきいとく まくあまくよがく人 はく良覺  
捨遺草上 初雪よせとせとけうと まくあまくよがく人 はく良覺  
土生三子中 君もすまくわれてやまと まく秋うよもと根う  
捨遺草上 紅葉多く志滿うくにのうき ねうへくをよはれ  
土生三子中 あくち情々付波せ仕あけ ねうへくをよはれ  
捨遺草上 秋乃よもづひとくよ葉吹へ ねうへくをよはれ  
月清集上 山うの雲入拂ふうすもつ ねうへくをよはれ  
金葉雜草 木またうのうもあく外 ねうへくをよはれ  
收拾遺紙 いもよくとくとがくもすく ねうへくをよはれ  
捨遺草上 郭云もくあくけうもくもく ねうへくをよはれ

玉葉臺我神を渡りうつもきがく  
 拾遣葉草とひそれぬまくもくまよし能  
 古今雜下草代うきもつまもけすに  
 殘故撰草あらめうじめのむすめありとも書くに  
 新勅秋上雪代うちに書くありとも書くに  
 新子名三まあるぬゆづをもれ初教す  
 新勅秋上もれあくせきをもれ初教す  
 拾玉集一まあるぬゆづをもれ初教す  
 月清集下月清集下  
 新勅冬さくまでまみれを吹風す  
 壬生三至下君代いもよの在所引れハ  
 拾遣貞坐かひよすま神をもれせ事せ  
 壬生三至下からひ冬よすまねりなう  
 拾遣貞坐うのろそんのんのんも財あれど  
 壬生三至下かひよすま神をもれせ事せ  
 拾遣貞坐かひよすま神をもれせ事せ  
 金葉名郭不るあらうふある地を  
 残古友あらうひちよをもれ人情を  
 古今集上やとらう樹葉うてのよき  
 残千友あらうひちよをもれ人情を  
 壬生三至ス育ふあらひよすま活水よ  
 同下アラヒヨス浦れ追風柳里よ  
 人山約人山  
 芳中芳中酒言資草  
 大納言經信大納言經信  
 中納言經信中納言經信  
 明魏法師明魏法師  
 淳俊輕舟淳俊輕舟  
 照光院照光院  
 佐野院佐野院  
 長崎城院長崎城院  
 本政子本政子  
 萩原信行萩原信行  
 萩原信行萩原信行

残拾臺上梅苑よほすあらう葉風や  
 拾遣貞坐ひのまらやみのむをも寄て  
 新子友井山の森の下をすとあへ  
 新葉臺上さうぬうまつ西紅とまごを  
 拾遣葉草うすねまとう水まきま  
 新勅臺津連と淮とまもじち砂の  
 河花河花が  
 新拾架住吉のあら神のスーさう  
 玄モモカモアシテ君の香れ  
 残子秋祇子白もうね  
 残故拾草子白もうね  
 新殘子雜子白もうね  
 拾遣雜上つゆはくにまうね  
 金葉雜上いくくうれ  
 残故拾雜上きくくぬ年代をとめり  
 同志四おももくとも残子うた  
 拾玉集五おももくとも残子うた  
 新葉臺たねうた  
 残拾臺三かひよすまれをね渡ス  
 用白丸大合用白丸大合  
 萩原信行萩原信行

類白

七  
四

壬生ニ至るもあてを失ひて紫れども衣  
古今雜上たれどもあくよせんち林の松より  
風雅玄ニ近じ中かくしてきくね葉もはれ  
残ぬ捨冬外山すわくゆくも残りしんね  
む葉草下あくてもよねうとまくねまく意  
同詩紙  
志きゆふよ紙をまく行轍れね  
正生二年中

松ももいのをもくもく  
はりはるよわくわくせき  
松ものまくまく白雪  
待むれひしわくとくとく  
ねりひまくらはくとく

名前をかきせ  
永福門院  
あ大納言の世  
様中納言の世  
室太子朱雀院

拾玉集一 山里よいへや まれつ郭云  
壬生ニ京中 やれ石れ巖巖とあん暮れよま  
ねもあうてや君よあひし  
猿古來上 何のあらぬまと思えまく表  
行もそろひのとけかほ 丸太片  
山家集下 初もと秋風てれのちにけむ  
行もれりよりまく  
後撰社中 秋うれもありふるうれづ  
まともみちうどらす行  
捨邊拵名 いきよつたらくうんあらすま  
ますみちうどんと同  
新葉雜申 何吉れをあらすまうづく  
ねもせせやひづん 桂宇廻て瘦ぢ  
壬生ニ京下 あらすまやあらぬ聲あめりけ  
ねも桂の秋風のうる  
新葉意三 住吉の秋よのうし  
あらすまひづく處よのうふ 小竹從  
新葉意三 住吉れまきまわらひて  
まくひづくをめだまゆる 喜門院喜  
壬生ニ京下 猿山多霧ノとれ深林  
松もあまめいをとまがる

新千雜上

拾玉集一  
新後秋上

男鹿ちく矢四野の萬葉歌

まねとつまつて歌うる  
右第十五夜

拾玉集一

新後秋上  
新後秋上

かとくまく吹秋月の経人歌

まねとくもとくとくめ

拾玉集三

わく海の波の歌は歌をき

まねとくす舞は流

惟明報主

拾玉集三

もくじゆきよよとあはれの歌

まのきえとと思ふる

深信歌

新後秋上

新後秋上

あらととくにいとくもいと

まかづりの歌の歌

拾玉集下

月清集中

古今をもととくもとくもとく

まかづりの歌

拾玉集四

ぬ撰衣四

わくじゆきの歌うるをねきみ

まかづりの歌

新後秋上

新後秋上

あらの鳴鶯のまし草とうる

まかづりの歌

新後秋上

新後秋上

ぬきみるんをあらじゆの

まかづりの歌

竹河

さくとそくゆへらうるまろれ まうせだきとくとたす  
 士生二ノ申 ゆてみもぬじまくまねまき わつそす甚あまう  
 新葉立一 せひまつ神ももく洞れ。まうううと珍めの年 本宮御言宣秀  
 金葉秋 こいとてうちひく下せれ まくよらうづくふじと前角の御  
 手裁秋上 こいとてうひゆせタスカ まくよらうづくふじと同  
 新強古秋上 美きよ風のやまと吹エタ まくよらうま度の御京 民の明  
 凤雅冬 きく雪の宿やまととくめ草 まくよらうま度の御京 在京の基御  
 五葉旅 まの店うり宿の床ひかのまくよらうま度の御京 中原源宗御  
 月清集下 忍もようく林よ月城をあめ およらき城りたる  
 新後拾稚春 伏見山門の雪をかとあそ まくよらうた鷗の羽き 光嚴院内製  
 新勅爵旅 大徳のまく山の松ねを まくよらうとあひるを 置始東人  
 捨遺六員外 木乃え吹風乃くよらひきで まくよらう江戸をかひと 源利隆  
 新千夜ニ きくりはゆくとんあひ乃 まくよらう江戸をかひと 桜よらう日づのふ  
 強子爵旅 きくりはゆくとんあひ乃 まくよらう江戸をかひと 源利隆  
 新拾姫一 いつとわあくまくのねのまくよらう江戸をかひと 後三条院  
 壬生二ノ上 めぬういもむれ山のねのれ まくよらう江戸をかひと 菊原長秀  
 新拾爵旅 いかりきくらう金代かく林え まくよらう江戸をかひと 六条入道あや  
 山家集下 おもすくみ御神よくめれ およ彼のまことしゆ

強古秋下 厚くぬのきのゆゑのめぐら まくよらう江戸をかひと 後三位赤陰  
 強子爵旅 旅人刀未のやオセ夏経く まくよらう江戸をかひと 中原源貞相  
 五葉立三 くすの袖みもとまううづく まくよらう江戸をかひと 前右近中資盛  
 捨遺五草中 三代経て草紙ひく年古を 梅ももく秋乃初霜  
 千載雜上 小嵐よもやあくまもなう まくよらう江戸をかひと 長延法師  
 壬生二ノ下 緒のまくまくのまくまくを 梅よもやあくまもなう  
 捨遺五草上 さとの草を身みうち中経せり 桜よらう江戸をかひと  
 新千夜ニ せひまつてうみ神よれ後り まくよらう江戸をかひと 茂原基任  
 強子爵旅 ひまを思ふと思ふとあめろ まくよらう江戸をかひと 指中御言是哉  
 新勅姫四 ひまを思ふと思ふとあめろ まくよらう江戸をかひと 指中御言是哉  
 捨遺負坐つまうう秋のじひまくまく まくよらう江戸をかひと  
 壬生二ノ中 月の月ハ難よううひて 桜よらう江戸をかひと  
 新後拾春 神のよほれ梅をもうを まくよらう江戸をかひと  
 新千難中 朝をまきねの難のよもとまも まくよらう江戸をかひと  
 手裁爵旅 凤のまくねの難のかずく林のまくよらう江戸をかひと 右を赤井重俊  
 新強古冬 うれ地と思ひ別れるあつまれ まくよらう江戸をかひと  
 強古奈四 君をすとわく象をまくの まくよらう江戸をかひと  
 捨遺哀傷 おきう涙うらやみを身みのまくよらう江戸をかひと 同

風雅志三 蒼翠のあたたかな流れ  
新後古冬 水をせうきねもたらぬ浮葉  
玉葉旅 稲をこもとひそきつねねみよ  
拾迷雜聲 けくわながくとよきのまうくうて一あわまと  
壬生ニふ下 世事よむむむまむむむむ  
孩拾志一 ちくわな我袖もくまくま  
新後古志 ちくわくそようはすくわあく  
玉葉秋下 宮あけてひのとよやう園の東  
月清集下 風あけむむらうのよわよて  
新み志ニ あく衣うむだくもあく内  
同 あきうの床れむれ御の瀬川  
月清集上 風うよ鶴乃床の露れよ  
山家集下 うよとよのまくよ袖のあく  
玉葉志一 うよとよのまくよ袖のあく  
新後拾志 うよとよのまくよ袖のあく  
拾遺唐草下 あひいす月う水よやくめ  
月清集上 わきむせき御の中山露れむちと  
新拾志一 わきむせき御の中山露れむちと

後千秋下 夕されハまきノ移や乃まうりて まゆ  
拾玉集六 七夕乃ちもよるはるを おれりよ秋風をもく  
新吉志ニ 惜けめむおれ狹乃がまぬハ まくはるまき ほふ深養  
拾玉集三 露すさき夜とおり まくはるを おれトの秋れ又く  
新葉志ニ 又の移まうりて まくはるを おれ  
山あ集上 奉よまじよ盛と告うかよ  
長秋詠藻上 あらうよあつれを おれ まくはるを おれ  
金葉志下 こひよてねぬよつれ まくはるを おれ  
拾遺志上 そそくわあまくわもとを おれ  
新古秋上 タされハもじうのへのまくはるを まくはるを おれ  
風雅志ニ 晓をうき地とまもくまき まくはるを おれ  
残古志ニ よひくよもくれを まくはるを おれ  
拾遺思草 まくの水音をうき まくはるを おれ  
同上 もれり又物あり まくはるを おれ  
新葉秋上 晓れ種之の床よ露をとく まくもいまや秋をまく  
残故拾春 梅花ちりう日よりあみ乃 まくもわれけひきぬ 申納すあれ  
手載志四 歌ゆかまくぬあれアリひ まくもうもれけひきぬ 申納すあれ  
残故拾春 まくもうもれけひきぬ 申納すあれ

同清集上 うれしきよみ袖のあやめのすてはれ  
拾達萬葉上 冬をすましとすもあふあ行 杉りくらすあらわる  
新拾志田 お藤うるなきへゆくあみけ まくせし金身のゆ エ松字合  
拾玉集四 小舟瀧て酒とすあらまゆ 杉瀧ときをれ去風  
ひ葉文 座のうの水をすまうのよ まくすとさ月をみる  
新拾雜上 秋のみとまくまく季のそ難 まくすとさ月をみる  
拾達雜下 たまなきてあまやさあらうまくすとあじとまくすと  
同 水乃あらやあらとまくすとまくすとまくすとまくすとまくすと  
拾玉集六 秋乃まくまくとまくすとまくすとまくすとまくすと  
いまとんじるとの風乃まくすとまくすとまくすとまくすとまくすと  
同三 同  
新古志一 わりをちねとちのれの澤と まくすとまくすと  
拾玉集六 人ちのとちりよのゆくまくすとまくすと  
拾達萬葉中 岩井としねま酒とく狀見よ 酒とくみれ風と酒と  
月清集下 枝すり月とすく御きて とくれ御とくみれ風と酒と  
子哉集上 海う春へとあうほなとあくを まやのあまうしてまくすと  
お葉が笑 人つまにあまうすとまくすとまくすと  
残す秋下 曇以れを御とくす若木し またりとくの煙火と骨 前石室

拾遺集下 うらはやくは水すらもぬとむれりしの月  
新載冬

拾玉集二

新拾集三

同七

新拾集三

拾遺集下 うらはやくは水すらもぬとむれりしの月  
新載冬

拾玉集二 ねのとのせ代思もぬ方ちうせまとふゑれれあらわ

新拾集三 うらはやくみる向川れ花めまほとよもも霞空雲

新拾集三 えれまふいをれまんへうりまほとよもも霞空雲

當小德院御製

源和氏

花園院御製

普諾法師

從三位保季

大綱子孫傳

左將軍

普光園

奥開白鶴下

八余院守倉

前大納言

良守

法師

前大納言

良守

法師

前大納言

良守

法師

新する事傷ちるを  
月清集下のう人乃もくらうとてき心うち  
捨拾不教うけくわむもくひの種類ひは  
捨玉集六あくかあくいきとおぬよぬよ  
收捨遺棄あくらうてうまれ身もくと  
捨玉集四人全りぬとみをねどみもと  
捨玉集一住山さくゆく蟲よのやうと  
玉葉立教ひとりのうめぬつまれふす  
捨玉集五教ぬよりひととくのやうと  
捨玉集四あくれふ思ふらぬ雲れよす  
捨玉集一思ひきや我りりうくみあれ  
捨玉集五うきくわひとのきとくら  
新する事傷ちるを  
捨玉集三あくよせんあくよくあくは  
金葉立教ゆくひ約くきくみぢれぬ  
新する事傷ちるを  
捨玉集三あくよせんあくよくあくは  
金葉立教ゆくひ約くきくみぢれぬ





拾玉集四

金葉雜

いあせんくらうる志まろ  
ふうけゆるまけすが金葉  
さきあよあわねの村

太中日片

残拾冬

金波あもあす北風の雪枝  
まゆみちくらひのひき賄徒三侵

新勅詔

弓とつもあらきやく様弓  
あるこつまゆひーも

新古雜下

あひまたふト秋よかのれ  
まゆまゆはまわれあひ

残千志一

うきなうもあせくすくの様弓  
まゆまゆのひのふと

新千冬

うだれ年上の雪はあけぬよ  
まゆまゆをもとよ被寒

拾玉集七

士生ニ下  
ふすとくめあひのをもす  
ふすとくめあひのをもす

拾玉集五

玉葉雑一  
あひのあひの松原もしく  
ほくらのちも雪さく

風雅集下

あひのあひの松原月の夜を  
まつてつまとまもれ

拾迷裏傷

あひのあひの松原月の夜を  
まつてつまとまもれ

新古雜上

あひのあひの松原月の夜を  
まつてつまとまもれ

新古雜下

あひのあひの松原月の夜を  
まつてつまとまもれ

拾玉集五

うち門のふきりけとうみ  
まひみくらんけをあひ 痘革

新古雜下

今も狂民のふきりけとうみ  
まひみくらんけをあひ 痘革

拾遺雜秋

かうてほと山田の縮とうひを  
まひみくらんけをあひ 痘革

従三位掌昌

拾玉集六

うひくものにと君う代と  
あひく日吉新くまぬ

同七

うひくと波よもよもと新くま  
ゆせそ次くと被せた風

被衣四

たえゆきくものとまうきぬ  
ますひのいげのうくそあ あ大納言

残拾志二

新くもの乃新くものとまうきぬ  
まうきぬうくそあ あ大納言

新古雜下

うひくと波よもよもと新くま  
まうきぬうくそあ あ大納言

拾遺雜秋

ひうけまかう新くまひく  
まうきぬうくそあ あ大納言

被衣長旅

かうてほと山田の縮とうひを  
まうきぬうくそあ あ大納言

按寒波資明

基俊

卷之三

第三

